



こどもクリニックニュース

NO. 282 令和5年7月1日発行
ともながこどもクリニック

院長の予定 (2023年8月まで)

7月	10日	(月)	3才健診	加須・保健センター
	20日	(木)	3才健診	大利根・健康福祉センター
	21日	(金)	3・9ヶ月健診	騎西・健康福祉センター
	31日	(月)	3才健診	騎西・健康福祉センター
8月	7日	(月)	3才健診	加須・保健センター

これらの日は午前の受付を12:00前に締め切ることがあります。また午後の診療開始時間が多少遅れることがあります。

※新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、日程の変更があるかもしれません。

夏季休診の予定

8月20日(日)～27日(日)

小児科休日診療の当番

令和5年10月までの当番一覧です。

加須市では、11月～3月は元日を除くすべての日曜日に、4月～10月は祝日に小児科休日診療を行っています。

7月	17日	(月)	加藤こどもC
8月	11日	(金)	つのだ小児科医院
9月	18日	(月)	福島小児科医院
	23日	(土)	ともながこどもC
10月	9日	(月)	福島小児科医院

※診療(受付)時間は12:00までです。

当番は変わることがありますので、ご利用の際は加須市の広報誌やホームページで最新情報をご確認ください。



現在の当院の発熱外来について

新型コロナは今のところ大きな波にはなっていませんが、少しずつ増加しているのは間違いありません。規模はともかく、再び波は来ると考えます。

加えて今も流行しているインフルエンザはタミフル等の特効薬で治療可能ですので、両者の早期診断のために発熱外来は継続しています。

なお季節柄、高い熱を出すお子様が増えているため、当院の発熱外来の対象年齢や検査適応の体温等は以下のような基準で運用しています。

<年齢は小児限定>

勝手ながら、中学生までの小児に限定しています。

<当日の完全予約制です>

発熱のある方は受診前に電話連絡をお願いします。

当院の発熱外来/検査の対応時間は

9:00～11:30、15:00～17:30、

受付人数は原則として最大30名(土曜日は15名)までとしています。連絡なしの直接来院の場合、お断りする可能性があります。

<発熱外来とみなす体温>

- ① 38.0℃以上の熱がある方(概ね24時間以内)
- ② 37.0℃台の微熱でも、家族や身近に新型コロナ陽性者がいる方(いわゆる濃厚接触者)
- ③ 発熱の無い「濃厚接触者」(軽症症状がある方)

※注: それ以外の方は全員、通常診療です。

<検査対象>

上記①②に該当する方は原則として検査をします。

コロナとインフルエンザの同時検査キットを使用しています。

※注: 上記③に該当する方は検査しません。

感染症の情報

いろいろな感染症が流行しています。

インフルエンザ、手足口病、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症、溶連菌感染症、胃腸炎そして新型コロナウイルスです。

それぞれの感染症の診断や治療に当たり、私が考えるポイントを以下に記述しました。



熱中症に注意！！

梅雨の真ただ中ですが、晴れると真夏日です。子供は高温の中で生活するだけでも体温が簡単に上がります。激しい運動でなくても、熱を持った車のシートに座っているだけでも上がることもあります。

急に熱が出ても他の症状が無く、元気や食欲がある場合、涼しい部屋で半日程度経過を見ることをご検討願います。

当院のホームページ

<http://tomonaga-kodomoc.jp>



ともなが
こどもクリニック

加須市下高柳 1633-1 Tel 0480-66-4150

★インフルエンザ

私を含め、多くの医師が過去に経験したことのない「季節外れの流行」です。当院でも毎週、数名～10 数名の陽性者が見つかります。

インフルエンザの検査タイミングは、通常は「発熱してから 12 時間ほど過ぎてから」と説明しているのですが、新型コロナも流行中の現在は、そのように言ってもらえません。

私の経験では、新型コロナは発熱した時点で 9 割以上の方が陽性になります。インフルエンザも発熱早期でも、半数以上の方で陽性が確認できます。発熱外来の主目的は新型コロナである以上、当方の基準以上の熱がある方は検査対象としています。

★手足口病とヘルパンギーナ

当地域でも大流行しています。

発熱と口内炎が共通の症状で、手足口病では特徴的な皮疹が出ます。解熱剤を使った対象療法しかありませんが、多くの場合は数日で元気になります。手洗いで予防を推奨されていますが小さい子供では困難ですし、症状がなくなった後も周囲へ感染するため、有効な予防方法がありません。

★RSウイルス感染症

全国的に流行していることが報道され、注意喚起されています。当地域でも報告数が多いです。通っている園で流行しているため検査を希望する方がいますが、当院では原則として検査は行いません。

その理由は、RSウイルスは「全ての子供が 2 歳までに最低 1 回は感染するウイルス」と言われるくらい「ありふれた風邪ウイルス」であることと、診断できても特効薬はなく、対象療法しかないからです。

★溶連菌感染症

久しぶりに流行しています。発熱とのどの痛みが特徴です。症状はヘルパンギーナと似ていますが、口内炎は見られませんので診察すれば予測できます。抗生剤で治療できますが、解熱して元気になっても 10 日間ほど飲み続けることが大切です。

★胃腸炎（発熱、嘔吐、下痢）も多いです。

乳幼児だけでなく、小学生の患者さんも目立ちます。

新型コロナの予防対策は、全ての感染症の予防にも役立っていました。それが緩んできた今、これまで皆が普通に罹ってきた病気に一気に感染してきているようです。

これが「普通の生活」と考えていますが、一気に戻るとさすがに大変ですね。